

広報

とまこまい

発行 北海道苫小牧市 編集 伊藤一男 印刷 苫小牧民報社
No.437 昭和40年8月20日 昭和28年6月10日第三種郵便物認可
毎月1、10、20日発行(1部5円)

人口動態	(七月末)
△世帯数	二〇、四三
△人口	八六、六五人
女男	四四、三一
△世帯	二二六人
△転入	二七人
△転出	六六四人
△前居住地未登録等増減	三九三人
△世帯增加	一六八人
△人口增加	三二七人
(住民登録人口による)	二二七人



とじて保存しておいてください
いつか役に立つことがあります

高丘新霊園で… 8月13日

お盆の13日、ここ高丘霊園は、お墓まいりの市民でにぎわいました。山のふもとの林をきりひらき整地して作ったこの霊園は、斜面を幾段にも仕切り、コンクリートで土どめをし、階段を作り芝生を敷きつめています。白い墓石が背景の林と芝生のみどりにはえる新しく明るい霊園です。

この高丘霊園は、市が昭和36年度から10年計画で工費約1億円をかけ面積21・64㌶の墓園を造成し、整備することになっています。今年度までの工費は国費1260万円を含む2048万円が投入されています。

現在384区画の墓地が使用されていますが今年分として、20か所があいています。

墓地の造成とともに、記念塔、納骨堂、事務所の建設や、植樹などもすすめられます。また、将来は、苫小牧市にある数か所の墓地もここに移す予定で、そのための造成も行なわれます。

一千三百タルクの新生地

30事業費 勇払川の改修工事進む

今回は勇払地区をみると、さいきん発表された『ああ北海の千人隊』のゆかりの地として市民の関心を集めているこの地区は、永い間政治経済の中心地として栄えた歴史をもっています。勇払川の大規模な改修工事をはじめ、将来的苦小牧の重要な拠点としての諸施策が進められ、輝かしいあすへの発展が期待されています。

支那の牧畜業

第三種郵便物認可
昭和40年8月20日

開発の手周辺地区へ

二勇払地区をみる二

に排水が悪く川のはんらんすること
が多く被害も多かつたのです。
この湿地帯の勇払原野を洪水から
守り、排水を完全にし、利用価値の
高い土地に生まれ変わらせて、苦小
牧港建設に伴う臨海工業地帯の造成
計画にも役立てようと、室蘭土木現
業所では昭和39年から10か年の予定
で、勇払川の改修工事を進めていま

△計画洪水量＝一秒あたり五百三十三
メト（このうち二百五十七セントをウタ
ナイ湖で調整し、残り二百七十三
メトは下流に流します）



國第ハルフ莫拉工場は現存
従業員は約八百人、製紙の中
荷額は年間三万石を上回り、
近く増設工事（抄紙機一台）
が完成し、偉力を加えること
になつてゐます。

两大工場
勇払は明治初期、開拓使出張所が現在の市街地に移つてからは、見るべきものもなかつたのですが、昭和18年国策ペルア勇払工場の操業によつて、ふたたび力強い歩みを初めました。

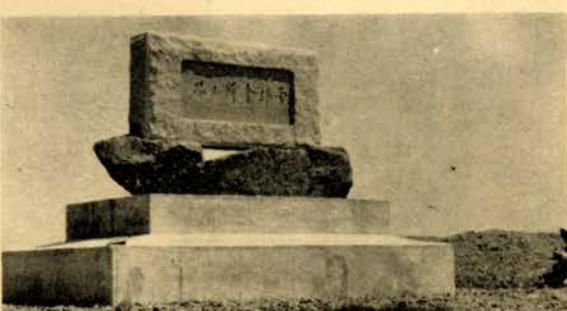
市との計画では今年度は十四戸が建設される予定で、すでに7月までに第三種住宅六戸が建てられ、残り八戸も8月末には着工の予定でこんごと毎年建てる計画になっています。

勇払は昭和10年に公営住宅が建てられた当初はわずか十戸でしたが、昭和39年ではその数も百九戸となっています。

ふえる公営住宅

はじめての 地区公民館建設

はじめての 地区公民館建設



(勇払会所の跡)

五回にわたって周辺地区的状況をみてきたこのシリーズも、ひとまず今回で終わりとします。また機会を改め、構想を新たにしてふれる計画であります。

